

「働く」を考える

福岡県・福岡県立八幡高等学校 2年 福田 裕子

私たちの周りには「働く」があふれている。教師や医師、店員など数えきれない「働く」が私たちの生活に関わり、支えている。そして、いつか私たちも「働く」の一部となる。しかし、今、ニート問題が「働く」の世界に暗い影を落としており、「働く」を考えなければならぬ局面に来ているのではないかと思う。

「働く」という言葉を辞書で引いてみると、仕事をするという意味の他に、様々な意味があった。その意味の中で、三つの意味を見ながら、「働く」を考えていきたい。

一つ目は「他人のために奔走する。」だ。この世の中には数えきれない程の職業が存在する。しかし、どの職業にでも共通して言えることは人が関わっているということだ。サービス業だけが人と関わっている訳ではない。農家でも消費者と関わり、作家でも読者と関わる。間接的な形であっても何らかの形で人とつながっているのだ。そして、いつも他者の目線に立って行動を起こすことが、「働く」の大本だと思う。もちろん「働く」ことは、自分自身の生活のためだったり、あるいは自分の好きなことを続けるためだったりするだろう。しかし、店先に置いていたり、雑誌に付いているアンケー

トで他者の声を求めていたりすることを深く考えると、「働く」中で求められていくものは消費者や読者など他者の満足感や充実感、共感などの大きく言えば、他者へ幸せを提供することではないかと思う。一見、自分のために「働く」はあるように思えるが、実は他者のためであって、大きく支えているのではないだろうか。

二つ目は「精神が活動する。」である。「働く」と必ず何らかの問題や失敗にぶつかる。もちろんそれは「働く」だけではなく、家庭の中や学校生活の中でも、誰でも一度は経験したことがあると思う。しかし「働く」のと比較して考えると、「働く」の方が責任があるのだ。私は中学生のときに「働く」に似た、生徒会の活動に参加していた。この活動では、会議を筆頭に立案や文書作成、提案まで様々なことをした。その中での大失敗は、会議で司会をして、たくさん出された意見を一つにまとめなければいけなかったとき、一言も言えなかったということだった。私はその他にも色々な失敗をしたが、それらの失敗の中でこの失敗が一番記憶に残っている。そしてこの失敗で多くのことを学んだ。自分自身に足りなかった、様々な目線で考えたり、原稿だけではなく

アドリブを入れた発言を心掛けることなど、これからの成功のための一歩を踏み出すための反省を得ることができた。また逆に、成功からも責任があるからこそその達成感と一緒に活動してきた仲間の大切さを学んだ。活動している間、いつも成功するためにはどうするかを考え、行動し、色々な経験をしてきた。そしてその中で数えきれない程、たくさんを感じ取ってきた。「働く」も同じく、成功や失敗の経験から多くのことを感じ取っていくのだと思う。

三つ目の意味は「効果をあらわす。」だ。私はこの効果を「他人のために奔走する。」と、「精神が活動する。」の二つの意味から考えて、自分自身の中に「生きる力」を「働く」から見い出す効果と考える。前の話と重なるが、他者のことを考え、行動して、感じ取っていく。そしてその経験を積み重ねていく。時に、自分が思い描いていたものと違ったり、望んだ結果とは違ったりする。しかし、その中で今まで知らなかった自分の可能性に気付いたり、生きがいを見い出したり、「生きる力」を十分に育てていけると思う。「働く」は様々な出会いと経験を通して、新たな夢への希望ももしかしたら与えてくれるのかもしれない。

今、ニート増加が社会問題となっているが、社会との関わりを避け、自分の殻に閉じこもって生きていくのは、非常にもったいないと思う。決して自分が望んだ職業に就くことができるわけではないが、もし、望まなかった職業になったとしても、現実をきちんと受け止め、「働く」ことと向き合って自分の可能性を模索していくことの方が、自分自身のためになると思うからだ。私には将来、就きたいと思う職業がある。その職業は就くことも厳しければ、もし就くことができても非常に大変なものだ。しかし、私はその職業に憧れを持ち、もし就くことができなくても、その職業に何らかの形で関わることのできる職業に就きたいと思っている。私は自分の夢を実現することができなくても、ニートにはならない。いつでも自分の中にある未知の可能性を信じていたいからだ。きっと夢を実現することができなくても、他の職業で「働く」中で新たな夢を見つけ、実現するよう努力しながら、「生きる力」を育てていきたい。

「働く」は多くの人と関わり合いながら、成功や失敗をくり返し、「生きる力」を育てていくから、重要性は変わらずに私たちのそばで支え続けていると思う。